ボーリング柱状図

調査名　平成22年度県単河川改修事業に伴う地質調査業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名　（一）犀川　長野市　新町他　（2）

シートNo.

ボーリング名	No.1	調査位置	長野県長野市信州新町　地内					北緯	36° 33′ 57.0″
発注機関	長野県　長野建設事務所			調査期間	平成 22年 7月 28日 ～ 22年 7月 30日			東経	138° 0′ 27.0″
調査業者名	株式会社グラフィック 電話（(0263)25-7668）	主任技師	伊藤潤一	現場代理人	伊藤潤一	コア鑑定者	伊藤潤一	ボーリング責任者	風間佑基
孔口標高	428.701m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	
総掘進長	14.00m								

試錐機	KR50-HC	ハンマー落下用具	半自動落下装置
エンジン	ヤンマーNFAD8	ポンプ	VG-P

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1					埋土・粘性土	褐～褐灰			0～0.30m 未分解の植物根を含む表土。 0.30～1.65m 砂質粘土を主体とする。φ2～3mm程度の亜円礫を混入する。 1.65～3.75m 粘土を主体とする。含水高く、粘性強い。 GL-2.60m付近およびGL-3.60m付近コンクリート片を混入する。 全体に不均質である。
2									
3	424.09	3.75	3.75						
4					砂質シルト	褐～褐灰		非常に硬らかい	砂質シルトを主体とする。 含水高く、粘性強い。 混入砂は確認されない。コアは指圧により容易に崩れる。
5	422.80	2.15	5.90						
6	422.10	0.70	6.60		シルト質細砂	褐	非常に緩い		細砂を主体とする。 全体にシルトを多く混入する。 不均一である。
7	420.90	1.20	7.80		砂礫	褐灰～暗褐灰	密な		φ2～40mm程度の亜円礫を主体とする。 礫間は中～粗砂で充填される。最大粒径は60mm程度。 礫種は安山岩・凝灰岩。
8									
9	419.70	1.20	9.00		礫混じり粗砂	灰～明灰	密な		粗砂を主体とする。 全体にφ2～40mm程度の亜円礫を混入する。最大粒径は50mm程度。 8.90m付近 φ20～40mm程度の亜円礫を多く混入する。 礫種は安山岩・凝灰岩。
10					砂岩	灰～暗灰			全体に均質な砂岩。 混入物は確認されない。 固結度は高く、コアは短棒～棒状にて採取される。 粒径の異なる同質岩でのラミナが発達する。 ラミナは t=2～5mm程度であり、黒色化している。 一部、このラミナ沿いにクラックが発達する。 クラック沿いは泥質化しているが、密着している。
11									
12									
13									
14	414.70	5.00	14.00						

孔内水位(m)／測定月日：7/29 2.05 ／ 7/30 4.50

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	2	1	4/30	4
1.45					
2.15	1/15		1/15	2/30	2
2.45					
3.15	1	1	2	4/30	4
3.45					
4.15	1/20		1	2/30	2
4.45					
5.15	1/32			1/32	1
5.47					
6.15	2	2	1	5/30	5
6.45					
7.15	22	11	13	46/30	46
7.45					
8.15	8	10	12	30/30	30
8.45	50/8			50/8	188
9.15					
9.25	50/7			50/7	214
10.15					
10.22	50/9			50/9	167
11.09					
11.09	50/1			50/1	500
12.09					
12.01	貫入不能			50/0	
13.00					
13.00	貫入不能			50/0	
14.00					
14.00					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
7.50	1-1	①	粒径 含水比 液性限界 塑性限界	
3.60				
5.00	1-2	①	粒径 含水比 液性限界 塑性限界	
5.60				
				7/29
				7/30